

布村 昇

富山市科学文化センター 〒939-8084富山市西中野町1-8-31

## Three small topics on faunae of Toyama Prefecture in 2005

Noboru Nunomura

## 入善で発見された淡水ヒモムシ

2005年5月30日、入善町小摺戸地内の月の又川で川底を網で搔いてみたときのことである。ここは結構流れが速く、三面コンクリート張りの生物採集には期待のもてる環境ではなかったがシマイシビルやプラナリアとともに、橙色の蠕虫が採取された。吻を伸び縮みさせてるのでこの蠕虫は紐形動物と思われた。紐形動物はもっぱら海水にすむ動物群であり、淡水には殆どないので貴重である。

今回の確認地をその後何度か訪れたが、かなり念入りに調べたものの確認できなかった。また、さらに同じ川の上流も探してみたが、まったく採集できなかった。この類の専門家である北海道大学の柁原宏氏に送り、正確な同定をお願いしたところトヤママミズヒモムシ*Prosoma* sp.のことであった。本種はなお、従来も「富山県朝日町水田付近のため池」(岩田、1997)から記録があるのみである。固定していただき、写真を撮影していただいた北海道大学の柁原宏博士に厚く御礼申し上げる。

文献：岩田文夫 (1997) 紐形動物 (in日本動物大百科, 7. 無脊椎動物) 平凡社。



(柁原宏氏撮影)

## 朝日町鹿島樹叢の陸産等脚類その後

鹿島樹叢の調査を2003年の8月10日に行い、このシリーズの「私の野帳から (富山県内版) -2」で報告したが、「セグロコシビロダンゴムシが各林床とも優占している。」と書き、ニホンヒメナムシについては、「かつての記憶では鬱蒼とした照葉樹林ではニホンヒメナムシが優占していたが、今回はかなり少なかった。」(富山県生物学会誌、43号)

2005年8月1日に現地を訪れる機会があり、状況を観察したが、最も自然度が高い場所に生息するニホンヒメナムシが多く生息しているのを確認し、乾燥した林を好むセグロコシビロダンゴムシや人為の影響下に生息するオカダンゴムシ、ワラジムシなどよりも多い様子で安心した。

## ハナダカダンゴムシの出現

わが国に150種ほどいる陸産等脚目甲殻類の中でもオカダンゴムシ属はハナダカダンゴムシ *Armadillidium nasatum* と日本各地に多産するオカダンゴムシの2種しか知られていない。共に世界各地に分布するcosmopolitanであるが、前者の日本の現在の分布は横浜と神戸の一部だけであるので、とても富山にはいないものと思った。しかし、2005年6月22日、県立中央植物園温室で「見慣れないダンゴムシがいる」との知らせを受け、調査したところハナダカダンゴムシであることを確認した。広分布種なので精査すれば、日本各地からもかなり見つかる可能性があるが、富山県内の確認記録として記しておく。